

デイサービス ACT（児童発達支援事業所） 支援プログラム

営業時間		(月・木) 9:30～12：30	送迎	なし
支援方針		・安心できるお母さんを支えに、色々なあそびを経験し、好きなあそびを広げます。 ・身体をたっぷりと動かしてあそび、しっかりと食べてぐっすりと眠る24時間の生活基盤を整えていきます。 ・身辺自立へ向けて、身の回りのことへ少しずつ気持ちを向けていきます。そのために、生活やあそびの中から“ジブンデ（やってみよう）”という気持ちをふくらませます。 ・親子で過ごす中で、“たのしい”や“嬉しい”気持ちをたくさん共有します。 ・お子さんの成長を共に喜び合い、子育ての悩みを話し合えるような保護者集団づくりをすすめます。		
支援内容				
本人支援	健康・生活	・丈夫な身体づくり、元気にあそべる体力づくりをすすめます。 ・安心、安全に過ごせる環境づくりを行います。		
	運動・感覚	・あそびの中で、物に合わせて姿勢を変えたり、バランスをとって身体を支えたりするなど、色々な身体の使い方を体験します。 ・前庭覚、固有覚に働きかけてあそんだり、好きな感覚を取り入れたあそびを経験する中で、受け止められることを広げます。		
	認知・行動	・一定決められた日課がある小集団の生活の中で、集団生活のルールを学んだり、“〇〇の次は△△”と見通しをもったりする経験を積んでいきます。		
	言語・コミュニケーション	・好きなことを“もっとやりたい”という要求や、困った時に“手伝って（助けて）”と助けを求めるなど、お子さんが“自分の気持ちを相手に伝えよう”とする気持ちをふくらませます		
	人間関係・社会性	・色々な取り組みを通して、家族以外の大人と過ごす経験を積みます。その中で家族以外の大人との信頼関係を築いたり、お友だち同士で関わったりしながら人と一緒に過ごす楽しさ、心地よさを感じます。		
地域支援・地域連携 (地域交流・園外活動)		・散歩で近隣の公園に出掛けるなど、積極的に園外に出ながら地域資源の活用につなげます。		
移行支援		・必要に応じて、他に利用されている施設とも連携を取り、お子さんの姿を捉えていきます。また、就園など通う場が変わる時には「引継ぎ表」を作成して、ご家族と確認した上で次の場への引継ぎに使用していきます。		
家族支援		・日々の連絡ノートや懇談などを通して御家庭での様子を聞きとり、お子さんの今の姿を保護者と一緒に捉えます。また、その姿に対してどういった関わりが必要かを一緒に考えていきます。		
職員の質の向上		・事業所内の職員研修だけでなく、法人が保証している研修制度を使い、外部の研修へ積極的に参加し、支援に必要な知識や技術を学ぶ機会を設けています。		
主な行事等		9月：前半期のまとめ 12月：クリスマス会 2月：1年のまとめ		

デイサービス ACT（放課後等デイサービス） 支援プログラム

営業時間		(月・木) 8:45～19:00 (水) 10:15～19:00 (火・金) 13:00～19:00 (土) 9:00～17:00	送迎	あり
法人理念		<使命> - すべての人々がかかけがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していける社会を築くことをめざします。 - 隣人とのあい、ふれあい、育ちあいを大切に、ともに地域の課題を担うことを通して福祉の輪が広がるように努めます。 - 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。 <子ども像> - いのちを守り、いのちを強くする子ども - ゆたかな要求をもち、意欲的に生活をする子ども - どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども - 人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども - 人とともに育ちあえる子ども		
支援方針		- 安心でき、生活が分かる環境と日課から、自分で選び決めて、友だちと一緒に楽しく過ごします。また、子どもの要求から季節のあそび、行事、学年齢の経験を積み重ねます。 - 親と共に、子どもの豊かな放課後や子どもの姿を共有し支援と一緒に考え合います。 - 地域と連携し、子ども理解を深めます。		
支援内容		小学校低学年	小学校高学年	中高生
本人支援	健康・生活	- 学校での過ごし方、生活リズムを家庭と共に連絡ノートや送迎時に確認し、環境を整え安心・安全に過ごします。 - 本児のペースを大切にしつつ、自分から気づき、自分で決めて、生活に向かう関りを大切にします。	- 身辺自立の力をつけるために、生活の場面の環境の工夫を行い、お子さんの特性や姿に応じた支援を行います。 - 高学年として役割を持ちます（つどいの進行、おやつ準備・片付け、買い物等々）。	- 荷物の管理を自分で行うと共に、生活に必要な基本的な習慣を自分で行えるよう、適切なタイミングで必要に応じた支援を行います。 - 中高生として役割を持ち、友だちと協力して生活を進めます。
	運動・感覚	自分の好きな感覚を十分に活用できるよう、活動やあそびを通して支援します。	好きな感覚から大胆にあそぶことや友だちと共有してあそびます。また、新しい事への体験も促し、興味の幅を広げます。	その子の得意なことや学年齢のあそびを友だちや場（外出）を広げて経験します。
	認知・行動	子どもの好きな感覚や得意なことから、自分で選び決めて、複数のグループに別れて安心・安全にあそびます。		
	言語・コミュニケーション	- 視覚的なツール（日課表・写真カード・具体物）を使うことや環境（あそぶ・ゆっくりするスペース、つどいの体形）を整え、生活や活動が分かり、自分で選び決めて過ごすことを大切にします。 - 活動を積み重ねる中で、日課が分かり、自分から主体的に向かうことを大切にします。 - あそびの中で支援者が見本となり、くり返しの中で、一定のルールを理解し、楽しめるよう支援します。		
	人間関係・社会性	- それぞれの特性に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、その他のツールを用いて思いのやりとりを行うなど、基礎的なコミュニケーションの能力を身につけるための支援を行います。 - 話し言葉や各種の文字・記号・イラストや写真などを用いて、相手の意図を理解したり自分の思いを伝えたりするなど、言語を受容し、表出することができるよう支援します。		
地域支援・地域連携 (地域交流・園外活動)		- 職員がモデルとなり、一緒に過ごす仲間との交流の経験が積めるように支援します。 - 集団活動を通して、ルールや順番を守ることや、円滑にコミュニケーションをとって関われるよう支援します。 - 職員や仲間との適正な距離感把握できるように、適宜声かけ等で分かりやすく伝え、それぞれが安心して過ごせる関係づくりを支援します。		
移行支援		- 地域の中に居場所をつくりながら、社会活動の幅を広げていきます。地域の社会資源も利用しながら、あそびや体験の機会を広げていく事で、子どもたちにとって地域そのものが安全・安心な場所となることにもつなげます。 - 必要に応じて、学校・相談支援員・事業所等、子どもに関係する機関と情報を共有し、具体的な場面での関わりの提案やポイントを考え合い子ども理解を深めます。		
家族支援		- 学校や他事業所など各関係機関の情報を相互に確認し、ご本人が安心して過ごせるよう、必要な情報を共有します。 - 必要に応じて、新たな福祉サービスや事業所へつなげます。		
		- 送迎、支援計画を通して、子どもの姿を共有します。その中で、家庭に返せることを支援します。また、将来を見通して、今の支援と一緒に考えます。 - 子どもに経験させたいことを親も巻き込みながら、共に行事計画を進め、親子共に経験を広げます。 - 子どもの姿で悩んでいることを共有し、家族だけでなく、たて・よこの保護者同士の仲間づくりを大切に		

	します。
職員の質の向上	・事業所内の職員研修だけでなく、法人が保証している研修制度を使い、外部の研修へ積極的に参加し、支援に必要な知識や技術を学ぶ機会を設けています。 ・地域連携を通して、学校・他事業所からも学び、子どもの理解を深めます。
主な行事等	7月：2泊3日キャンプ　8月：親子海水浴　10月：社会館バザーの出店 12月：保護者交流会・クリスマス会　3月：6年生・中学3年生・高校3年生の区切りのとりくみ